

# 一隅を照らす

かしわざき 柏崎市長(新潟県) あいだ ひろし 会田 洋

Hiroshi Aida



## 幻の趣味

私が柏崎市長に就任したのは、平成16年12月ですので、在任期間は11年目に入っています。市長就任の1カ月程前に新潟県中越地震が発生し、市内の一部に大きな被害が出ました。そのため市長としての初仕事は、震災からの復旧・復興に取り組むことでした。

その後も、集中豪雨や豪雪などの自然災害が毎年のように続き、まさに災害との闘いの連続でした。そして、平成19年7月に新潟県中越沖地震が発生し、今度は市内の大部分が壊滅的な被害を受け、本市にとって未曾有の大災害となりました。その際、全国各地から多くの温かいご支援をいただ



新潟県中越沖地震発生時の記者会見の様子

き、震災からの早い復興に結びつけることが出来ました。全国の皆さまのお力添えに深く感謝する次第です。

私の趣味は、将棋・キノコ採り・映画鑑賞・水泳などですが、このような状況が続いたため、当初の2期8年間は山にも映画館にも行けず、ほとんどプライベートな時間を持つことが出来ませんでした。睡眠は毎日5時間ほどで、休みもほとんどなしの状態、当時、市民の方から「市長は年間のどのくらい休みがとれるのか」と聞かれて、「そうですね。5月の連休、お盆と年末年始であわせて7日程でしょうか」と答えたのを覚えています。もともと、今はもう少し休みが取れるようになりましたが。

本市は42kmの海岸線に、海がきれいでありフセーバーがいて安心な15の海水浴場を持っています。毎年7月26日には「海の花火大会」が開かれ、20万人の人数でにぎわいます。私も海の近くで育ちましたので、夏になると毎日のように海で遊びました。大人になってからは「個人メドレーを華麗に泳ぐ」ことを目標にしていました。しかし、年に1回プールに行けるかどうかの状態のため、最近は華麗どころか加齢のため泳ぎもままならず、もはや無理はできないと感じています。その代わりに、日本一になったこともある国内で唯一の社会人水球チーム「ブルボンウォーターポロクラブ柏崎」を応援し、「水球のまち柏崎」を盛



第40期棋王戦第3局(盤側左から4人目が筆者)

り立てていきたいと思っています。

将棋は、子どものころに遊び半分がよくやったものですが、今は指す相手もなく、もっぱらプロ棋士の将棋を新聞やテレビで楽しんでいます。ところが時々「将棋は何段ですか」とか、「今度一度お手合わせを」などという人がいて閉口します。そんなことから、最近は将棋ならぬ将棋観戦が趣味ということにしています。

将棋観戦といえば、プロの公式戦を実際に見てみたいと以前から思っていました。そのため日本将棋連盟に相談し、タイトル戦の一つで地元の新聞社が主催する「棋王戦」を地元で招致することが出来ました。今年の3月には、渡辺明棋王対羽生善治名人という将棋界の最高峰のお2人の対戦に

立ち会うことが出来、将棋ファン冥利に尽きる思いでした。

## 健康管理

市長さんは皆同じでしょうが、私も心身ともに健康でないと市政運営に支障をきたすとの思いから、健康管理には人一倍気を使っています。また、本市独自の高齢者向け「コツコツ貯筋体操」や「健康ポイント制度」などで、市民の皆さんに健康づくりを呼び掛けている手前もあり、市長自ら実践する必要に迫られてもいます。

よく健康には「睡眠」「食事」「運動」が大切と言われるますが、市長としてはこれがなかなか難しい。睡眠はともかく、どうしても運動不足になりがちです。食事も宴会など



コツコツ貯筋体操 (向かって右側が筆者)

外食や飲酒の機会が多くなります。私のささやかな健康法は、年1回の人間ドック受診と、市庁舎まで10数分の距離ですが、毎日できるだけ歩くようにしていること位です。そしてもう一つ付け加えるならば、以前NHKの番組「ためしてガッテン」で取り上げていたダイエット法です。やり方は至って簡単。まず50gまで計れる体重計を購入して、毎朝起きた時と寝る前の2回体重を計ってグラフにつける。ただそれだけです。私の場合、劇的という訳ではありませんが、ある程度の効果は出ているように思います。

毎年敬老の日に、百歳になられた方の自宅に何ってお祝いを差し上げていますが、その際「長生きの秘訣」をお聞きすることにしています。その答えは人さまざまですが、共通するのは「物事にくよくよしない」「好き嫌いなく食べる」「適度に体を動かす」といった点です。百歳の皆さんにあやかって、健康管理に努めていきたいものだと思います。

## 座右の銘

私は「一隅を照らす」を座右の銘にしています。これは天台宗の祖で比叡山を開いた伝教大師・最澄の言葉です。「一隅」とは今自分がいるその場所のことです。自分自身が置かれている場所で、全力を尽くすことの大切さを教えていると思います。自分に

与えられた場所で精一杯努力し、自分自身が輝くことで社会全体が明るく照らされていく。自分のためばかりではなく、人の幸せ、みんなの幸せを求めているこうという意味と受け止めています。

私は大学在学中から、地方が良くなければ日本は良くなないと考え、ずっと地方自治体で仕事をしてきました。そんな私にとっては、この「一隅を照らす」という言葉が一つの大切な指針となっています。毎年、卒業式や成人式で若い人達に、祝辞とともにこの言葉をはなむけに送っています。一人でも多くの若者が、ふるさと発展のために、一隅を照らす人として頑張ってくれることを願っています。



ぎおん柏崎まつり・海の大花火大会 (7月26日)